

2025年8月実績概要（メモ）

（2025.9.18）

原料エチレン等の増産が見られるも、誘導品の生産では増減にやや分散化が見られる。

1. 生産動向

イ) エチレン 427,000トン

前月比 +10.4% (+40,400トン)
 前年同月比 +5.8% (+23,500トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	-	-
定修要因等	+3.7%	+5.5%
能力増減	-	-
稼働率変動	+6.7%	+0.3%
生産増減率	+10.4%	+5.8%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月77.5%* → 当月81.9% ← 前年同月81.7%
 定修プラント：前月2社2プラント → 当月1社1プラント ← 前年同月1社1プラント

ロ) 主な石油化学製品

前月比は、主に定修規模差から、HDPE、SM、EO、EG、AN、SBR、ベンゼン、トルエン、キシレンなどの11品目がプラス。MMAモノマーなどの6品目はマイナスとなった。

前年比では、定修規模差や稼働率要因等から、HDPE、PS、塩ビモノマー、MMAモノマー、AN、BR、トルエンなどの10品目がマイナス。SM、EG、SBR、キシレンなどの7品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況（LDPE、HDPE、PP、PS）

イ) 生産

前月比は、定修規模差等からHDPE、PP、PSはプラス、LDPEは微減となった。

前年比は、LDPE、HDPEは主に定修規模差から、PSは稼働率要因等からそれぞれマイナス、PPのみは微増となった。

ロ) 国内出荷

消費のマインドは、暮らし向きや雇用環境等で、前月に対し持ち直しの動きが見られている。国内の生産活動は、一進一退の状況が続く中、8月の予測では石油製品、生産用機械、輸送機械などの業種で伸び率の増加が見込まれているが、生産活動全体のトレンドで見るとやや弱含みの動きも見られている。

汎用樹脂の出荷は、前月比は、夏季休暇に伴うユーザー側の稼働日数の減少影響もあり、LDPE、HDPE、PP、PSともに大幅なマイナスとなった。前年比でもLDPE、PPは微減にとどまるもHDPE、PSはマイナスとなった。

分野別の出荷状況では、フィルム等の包装材分野は、LDPE、HDPE、PSは前年比でマイナスとなる一方、PPのみはプラスとなった。包材以外の出荷では、LDPEの加工紙分野、PPの射出成形分野が前年の出荷を上回ったが、これ以外の分野では各樹脂とも前年を下回ることとなった。

ハ) 輸出

米国の相互関税交渉の進捗が見られる中、中国の対米輸出の減少幅の拡大が続くとともに東南アジア域内への振り向けもあり、域内の玉の潤沢感が増し、需要家サイドは様子見の状態が続いている。国内からの輸出は、前月が低位であったHDPEとともにLDPEは前月比プラス、PP、PSはマイナスとなった。前年比でもLDPE、HDPEはプラスだが、PP、PSはマイナスとなっている。

ニ) 在庫

在庫量は、前月に対して、LDPE、HDPE、PP、PSともに増加した。在庫率(季節調整済)は、LDPEは横這い、HDPEは若干の低下、PP、PSは上昇した。在庫水準としては、LDPEは高め、HDPEは極めて高めが継続、PP、PSは高め傾向が見られはじめています。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		7月末	8月末
LDPE	+12,500	3.5	3.5
HDPE	+1,400	4.5	4.4
P P	+15,400	3.1	3.4
P S	+10,100	1.7	2.0

前月からの修正を*で付記

以上